

行事報告

ザ・シンポジウムみなと in 札幌

令和2年12月11日(金)、28回目となる「ザ・シンポジウムみなと」が『新エネルギーを担う北海道のみなと～北海道における洋上風力発電の円滑な導入に向けて～』をテーマに、札幌の京王プラザホテルで開催されました。

コロナウイルス対策のため無観客での開催となり、コーディネーターのいる札幌会場と講演者及びパネリストの方々がいる東京のスタジオをオンラインで結びました。洋上風力発電をテーマとした講演とパネルディスカッションの様子は、インターネットでライブ配信を行い、事前に登録のあった約400名の皆様にご視聴を頂きました。また、録画したものはCPCのホームページから動画配信も行っています。

はじめに、主催者を代表して「ザ・シンポジウムみなと実行委員会」の眞田仁委員長が札幌会場から開会挨拶を行いました。

次に、東京スタジオからの講演へ切り替わり、国土交通省港湾局の松良精三海洋・環境課長から、『我が国における洋上風力発電の導入促進に向けて』と題した基調講演がありました。北海道沿岸の風況は洋上風力発電に適しており、特に日本海側は高い可能性があること。また、洋上風力発電の導入により、経済波及効果や雇用創出も期待できるとのお話がありました。

続いて、東京大学教養学部環境エネルギー科学特別部門の松本真由美客員准教授から、『洋上風力発電への期待～地球環境への貢献と地域との共存』と題した特別講演がありました。洋上風力は地球温暖化対策として有効なクリーンエネルギーであり、洋上風力発電が地域と共存し、地域社会の活性化を図ることが導入促進に向けて重要であるとお話がありました。

休憩をはさみ、「北海道における洋上風力発電の円滑な導入に向けて」をテーマに、パネルディスカッション



開会挨拶
眞田 仁 実行委員長



基調講演
松良精三 国土交通省港湾局海洋・環境課長



特別講演
松本真由美 東京大学教養学部
環境エネルギー科学特別部門客員准教授

が行われました。札幌会場には、北海道科学大学工学部都市環境学科の白石悟教授がコーディネーターとしてご登壇いただき、東京スタジオでは、ご講演頂いた松良課長と松本准教授とともに、グリーンパワーインベストメントの幸村展人副社長、一般財団法人港湾空港総合技術センターの松田英光洋上風力推進室長がパネリストとして参加され、熱心な討論が交わされました。



コーディネーター
白石 悟 北海道科学大学工学部都市環境学科教授



パネリスト
幸村展人 グリーンパワーインベストメント副社長執行役員
兼事業開発本部長

まず、洋上風力発電を円滑に導入するためのスタンスとして、その地域に寄り添う姿勢が大事であり、情報公開と丁寧な説明で地元との信頼関係を構築する必要があること。石狩湾新港では電力の地産地消を目指すなどの発言がありました。

次に、洋上風力発電の地域への波及効果として、運転やメンテナンス等に必要な雇用と関連産業の育成があり、売電収入を一部基金化し地域活性化に役立てる事例なども紹介されました。

さらに、洋上風力発電を活用した新たなエネルギーについて、電力を水素化して活用するためには港湾がその拠点となること。北海道の港湾はそのエネルギーネットワークの一大生産・供給拠点となるポテンシャルがあるなど、洋上風力発電を北海道へ本格的に導入することへの期待の声で討論を終えました。

主催者挨拶、基調講演、特別講演、パネルディスカッションについては「海と港」第39号に掲載予定です。



パネリスト
松田英光 一般財団法人港湾空港総合技術センター
審議役洋上風力推進室長



札幌会場



東京会場スタジオ